

◇ 本題材で育成する資質・能力

作品に内在するものの中から自分としての新しい意味や価値をつくりだす力

◇ 学年 第1学年

◇ 題材名 鑑賞（現代アート・インスタレーション作品）

◇ 本題材の目標

作者の心情や意図を表現の特徴から感じ取り、自分としての新しい意味をつくりだすことができる。

【本題材の特徴】
 本題材の目標を達成するために、次の3つの視点で作品を捉えさせる。
 ①直観的な自己の感性で見る
 ②構成要素で見る
 ③作品設置環境を見る
 これらの視点で作品を捉えさせることで、根拠を持って課題について考えることにつなげる。

時	本題材の主な学習活動
1・2	現代アートのインスタレーション作品を鑑賞し、自分としての新しい意味や価値をつくりだす。

◇ 学習の流れ(全2時間)

学習過程（○教師の発問、●生徒の反応予測）	指導のポイント	評価規準〔観点〕 （評価方法）
<p>1 課題を見いだす。</p> <p>【導入】作品から自分なりにメッセージを読み解くことの大切さを説く。</p> <p>○「思いは言葉で伝わるのか。」 他者とのコミュニケーションにおいて、言葉は全体の3割程度しか役割を果たしていない。あとの7割は何だろう。</p> <p>●相手の表情や声の感じなど、雰囲気の影響も大きい。</p> <p>・新聞から取り上げた写真を鑑賞し、第一印象で感じたことを述べ合う。</p> <p>【作品提示】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「掌の鍵—The Key in the Hand」 塩田 千春(2015)</p> <p>空間を埋め尽くす無数の赤い糸に世界中から集められた大量の鍵が吊り下げられている。その下には2隻の船が置かれてある。2015年、ヴェネチア・ヴァイナレ「日本館」展示作品である。</p> </div> <p>・提示された作品を鑑賞する。</p> <p>【課題の練り上げ】</p> <p>①直観的な自己の感性で見る。</p> <p>○作品から最初に何を感じますか。（第一印象） ○作品から何か想像することがありますか。</p> <p>●第一印象は「水中花火」である。夏休みの夜に海辺で見た水中花火を思い出した。</p> <p>・①における対話による他者との交流</p> <p>②構成要素で見る。</p> <p>○作品の大きさはどれくらいですか。 ○材料は何からできていますか。</p> <p>●作品の大きさは20メートルくらいである。材料は、大量の鍵と赤い糸、あと木造の船が2隻置いてある。</p> <p>③作品設置環境を見る。</p> <p>○作品が置かれている環境について、あなたはどのように感じましたか。（広さ・明るさ・気温・匂い・音・他の設置物など）</p> <p>●天井が高い広い屋内で、薄明るいライトが当ててある。鉄の寂びた匂いがしてきそう。暑くも寒くも無い。鮮やかな赤と直線的な船の構図が張り詰めた雰囲気を醸し出している。</p> <p>・②及び③における対話による他者との交流</p> <p>2 課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【課題】 本作品に込められたメッセージとは。</p> </div> <p>3 課題解決を行う。</p>	<p>【発問の意図】 メールやSNSなど、現代において、メッセージの伝達手段として言葉が重視されているが、実際には、様々な情報からメッセージを読み取っていることに気付かせる。</p> <p>・見方や考え方は人によってそれぞれ異なることに気付かせる。</p> <p>・作品名は、後で「問い」とするため、授業開始時は提示しない。</p> <p>・教師は提示作品を鑑賞指導するにあたって、作者が作品に込めたメッセージ、表現方法の意図等を事前に理解しておく必要がある。本作品の場合、次の2点を押さえておく。①作品中の鍵と赤い糸は「人をつなぐシンボル」として表されている。②2隻の船は両方の掌を表している。</p> <p>【発問の意図】 直観的な自己の感性から、作品に対する自己のイメージを持たせる。</p> <p>・グループ内で一人一人の見方や考え方を共有していく。その際、教師は生徒が感性を中心に捉えた見方や考え方を適宜取り上げ、肯定的な言葉掛けを行う。</p> <p>【発問の意図】 作品の構成要素から見取れる事実を言葉にしていく。</p> <p>・作品の制作年日、制作された地域、作品が展示されている場所など、その他付随する事実としての情報を適宜与える。例：「作品には18万個の鍵が使われている」「全長約400km分の赤い糸が使用されている」など</p> <p>【発問の意図】 作品の環境因子から見取れる事実を言葉にしていく。</p> <p>・実際にその場で作品を鑑賞している訳ではないので、作品が置かれている環境については、生徒一人一人の自己のイメージをもとに捉えさせる。</p> <p>・造形要素（かたち・色・動静・テクスチャ・光の感じなど）の用語を使用して説明できるようにする。</p> <p>・他者との交流を通して、自分が見取ることができなかった作品に係る事実や構成するモノに係る情報を得ることができるようになる。</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・タイトルとメッセージを考える（個人思考） ○あなたならどのようなタイトルを付けますか。 ●「赤い雨」「運命の船」「孤独」など ○どうしてそのようなタイトルを付けたのですか。①～③の内容を根拠に考えましょう。 ●張り巡らされた赤い糸が雨に見えたから。 ●赤い糸と鍵は運命を象徴していると思ったから。 ○作品が投げかけるメッセージは何ですか。 ●人生には数多くの新しい扉を開ける機会がある。どの鍵を選ぶかは自分自身で決めなければならない。 ・対話による他者との交流（グループワーク） ・個人で考えたタイトルとメッセージについて、その理由を含めグループ内で共有する。 <p>4 自己の考えを表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品が投げかけるメッセージを再考する。（個人思考） ・作品が投げかけるメッセージについて他者の考えや新しい情報を踏まえ、自分としての最終的な考えをワークシートに記入する。 <p>5 まとめ・振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時を通して、自己の思考のプロセスや作品に対する考え方の変化を振り返り、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの鑑賞の視点を持って得た情報、グループで交流して得た情報を根拠に、自ら推測して考えるようにする。 ・作品のタイトルや作品・作者にまつわる事実、時代背景などの情報を、生徒の学びの深さに応じて適宜与えていく。例：「作者の塩田さんは、作品を制作する前に大切な人の死を経験している」「鍵は世界中の人から募集している。その際、鍵にまつわる個人的な記憶や思い出も届けられた」「2015年、世界ではギリシア経済の破綻、テロ組織との衝突、日本では、2011年の東日本大震災の傷がまだ癒えていない閉塞感を持った世界情勢であった」など ・他者との交流を通して感じたこと、また新たに得た情報を通して最終的な自己の考えをまとめていく。これまで考えていたことと、異なる内容になっても構わないことを押さえる。 ・作者が作品に込めたメッセージについては、必ずしも説明しなければならないものではない。説明する際は、模範解答的にならないようにし、作品に対する学びが完結しないようにする。一人一人が作品に自分としての新しい意味をつくりだすことに価値を置くようにする。 	<p>作者の心情や意図を表現の特徴から感じ取り、自分としての新しい意味をつくりだしている。</p> <p>〔思考・判断・表現〕 （ワークシート、発表、行動観察）</p>
---	---	--

【実践結果】生徒の変容

1 課題の練り上げの状況

- ・作品を見る視点を「自己のイメージ」「モノ」「環境」などとの関係で捉えることにより、主題を考える根拠が「何となく」ではなく、明確なものになっていた。
- ・作品を第一印象で捉えた自己のイメージを教師が肯定的に捉えてあげることにより、後の「問い」に対して生徒一人一人が多様な考えを出すことができていた。また、「他者との対話」において、自己の考えに自信を持って自分の考えを答えることができていた。

2 課題解決の達成状況

ルーブリック評価で課題解決の達成状況を評価したところ、次のような結果であった。

	A	B	C
生徒の達成状況	表現の特徴や空間、環境から得られたイメージや事柄を根拠にして、自分なりに作品を解釈し、作品の意味（テーマや主題）の記述をしている。	表現の特徴や空間、環境から得られたイメージや事柄が根拠として不十分であるが、自分なりに作品を解釈し、作品の意味（テーマや主題）の記述をしている。	表現の特徴や空間、環境から得られたイメージや事柄が根拠として不十分で、単に作品を見た感想を記述している。
人数	22	34	6

3 振り返りにおける生徒の気付き

- ・見る視点と課題が定められていることで、自分の考えを客観的に捉えることができた。
- ・作品を構成する要素やつくられた場所、その時代背景などを知ることによって、作者の気持ちが読み取りやすくなることが分かった。また、言語化することで自分が考えていることを友人と共有できたり、新しい視点を取り入れることもできた。

【改善の方向性】

- ・現代アートのインスタレーションは、設置する周囲の環境や作品を包む空気感を熟考して場所設定し、制作された作品なので、授業で提示する際は、視点が一方に偏らないよう多面的に鑑賞できるような事前の準備が重要なポイントとなる。
- ・振り返りにおいて、直観的に自己の感性を通して鑑賞した時と、思考のプロセスを追って鑑賞した後とでは、自己の見方や考え方がどのように変容したのかという点について、思考の過程が可視化できるワークシートを用いて確認しておく。
- ・自分が感じたことや考えたことをグループで意見交換することにより、自他の作品に対する捉え方や感じ方の違いに気付き、互いの意見を尊重し合いながら自分の考えを確立することにより、作品を深く理解できるようにする。